

化学バイオ工学科（旧応化・旧生応化・旧バイオ）

化学バイオ工学科の近況



工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授
辻 幸一

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年は、年度初めから新型コロナ感染対策のため、新入生ガイダンス・オリエンテーションが中止、前期講義も遠隔となりました。学科教員も慣れない遠隔講義に加え、学内外の会議がWEBでの開催となり、我々も対応に追われました。在校生の皆さん、特に新入生も不安だったと思いますが、学年相談委員と共にWEBでの面談やメールを通じて学生と連絡を密にしてきました。後期になり、やっと、対面での講義も一部再開となった次第です。

そのような状況下ではありますが、化学バイオ工学科では、教授11名、准教授6名、講師3名（内1名は特任講師）、特任助教2名の、合計で22名の体制で学生への教育及び研究活動に励んでいます。なお、有機工業化学分野の畠中康夫教授は、2020年度末にて定年退職の予定です。長年の本学科での教育

と研究にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。

国内外の学会等の講演会がWEBでのオンライン開催となっていますが、本学科からは佐藤絵理子教授のグループによる新規接着材料に関する研究が高分子学会広報委員会パブリシティ賞を受賞、松山嗣史特任助教が第69回デンバー会議にてベストポスター賞を受賞されました。その他にも多くの学生が優秀ポスター賞など受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

卒業・修了予定者の進路ですが、コロナ禍ではありますが、ほぼ100%の学生が内定を頂いています。これも卒業生の皆さんが各企業において活躍され、本学、本学科の評判を高めて頂いている賜物と感謝しています。今後とも皆様の益々のご活躍と祈念いたしますとともに、引き続き、本学科へのご支援とご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。